

道

後藤 昭子

私事ですが、最近健康のために毎朝一時間半くらい、京都の北大路の辺りを散歩しています。時々、道がわからなくなり、迷子のようになって苦勞することがあります。それでも、毎日いろいろな発見があり楽しいです。先日ですが、紫式部のお墓と書いてあるのを見つけまして、早速、敷地内に入らせてもらいました。ユネスコにも登録されているらしいですが、敷地内には観光客もなくひっそりとしていました。そこには土を盛った場所に五輪塔があり、紫式部の墓標がありました。そして右隣にはなぜか「六道珍皇寺の井戸から冥途へ通っていた人」と言われる「小野 篁」のお墓があるのです。彼は役人で閻魔大王の補佐をしていた伝説の人だそうです。その墓は、紫式部より二百年前のものだそうです。紫式部と言えば『源氏物語』でいられていますね。なぜ「小野 ^{おのの} ^{たかむら} 篁」の墓の横にあるのか不思議に思いました。そのことについて、このようなお話があるそうです。それは、紫式部が地獄に落ちたということです。そして地獄に落ちた紫式部を小野篁が助けたということです。本当かどうか、詳しいことはわかりませんが鎌倉時代の伝承であるため信じがたい面もあります。興味のある方がおありでしたらご案内します。京都の町は、古い寺やお墓が至るところにあって興味深いですね。話がそれますが、おいしいパン屋さん、コーヒー屋さんも多いようです。こうして、散歩をしていて思うことは京都の町は平安時代以降、政治の中心であり戦乱の町でもあり、多くの人がなくなっています。ご縁によって生き、ご縁によって死んでいく。姿、形があるものは、いずれ無くなっていく。寺が多く平安にみえる京都にもこのような歴史があったのだと散歩をしながら思い浮かべるのです。

親鸞聖人は、時に自分で現実を乖離して、思い通りにしたいと願う人間のここには念仏しかないと言われます。このこと一つであると言われていています。いつでもどこでも誰でも平等に信心を賜ることができることを教えてくださいました方なのです。それぞれが、それぞれの道を迷いなく生きること、たった一度の人生を無駄なく生きるには、親鸞聖人の生き方、教えから学ぶことがあるのです。私のような迷い多き人間も生かさせて頂けるのです。はてしない白い道を一心に歩けるのは、本願の救い、呼び声があるからです。

私も高齢者になりました。いつ、不自由になり介護を受けることになるかはわかりません。

しかしながら、そうなっても念仏することはできます。喋れなくなっても、心の中でできます。なぜなら、弥陀は「抜苦与楽」と言ってみえるからです。至らぬ私の話を聞いていただきありがとうございました。